



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年07月14日 第1225号「週刊五十嵐レポート」

課題

7月初旬の日経平均株価は3万9000円～4万円の範囲内で推移している。7月11日付日経新聞、「海外勢、熱なき日本株買い」という記事。日本株に海外マネーが回帰している。4月第一週から14週連続で買い越しが続き、日本株を高値圏に押し上げた。長期目線主体の買いが目立ちだしている。海外マネーが日本の株価を押し上げている。

財務省が7月8日発表した5月の国際収支統計によると、経常収支は3兆4364億円の黒字。(経常収支は輸出から輸入を差し引いた貿易収支や、旅行収支を含むサービス収支、外国との投資のやり取りを表す第1次所得収支などで構成)。貿易収支は5223億円の赤字。サービス収支は2011億円の黒字。サービス収支のうち、旅行収支の黒字額も5月として過去最大を更新、6292億円の黒字。

今年1～5月のデジタル赤字の累計額は3兆382億円。同期間の旅行収支の黒字は3兆417億円、デジタル赤字をほぼ打ち消した。(デジタル赤字とはクラウドサービスの利用料、動画・音楽配信サービスのライセンス料、ネット広告など)。(日経新聞記事参考)

7月12日付日経新聞、「大機小機」は「労働力をどう確保するか」。生産年齢人口(15～64歳)は2025年～40年で約1100万人減少する。今後、労働供給の増加を期待できるのは、女性・高齢者の労働力化、労働移動の円滑化・正規化、そして外国人労働者の受け入れ拡大の3ルート。女性・高齢者の労働供給はいずれ先細りする。国内で不足する労働力を賄うため、外国人労働者の受け入れを現在の年間十数万人から2～3倍に増やしていくことも選択肢である。

日本の国力を維持もしくは成長させるには、外国の「ヒト」「モノ」「カネ」が欠かせない。日本が海外から魅力あることが重要。中小企業に関わるのは、外国人労働者。今まで日本人のみを採用していた企業も人手不足の環境下で外国人労働者を受け入れる動きがある。外国人にとって日本はアウェー。日本語の習得、生活環境、人間関係、仕事のスキル等々。これらの課題を一つずつクリアした企業が成長していく。

ちょっと
気になる出来事

今年の夏も暑い。日射や紫外線を防ぐため、フェースカバーをしている女性を多く見る。7月12日付朝日新聞、「呼吸しやすく顔ガード」という記事。

UVカットフェースカバー「ヤケーヌ」は顔はもちろん、首周りをしっかりと覆う。口元が大きく開くことで呼吸がしやすく、つけたまま水筒から水分が補える上、メガネが曇りにくいのが特徴。

「ヤケーヌ」は炎天下で働く農家の声から生まれ、農協での販路を中心に大ヒット。メーカーの丸福繊維(愛知県)は1952年創業、農作業服製造からスタート。長時間の屋外作業に耐えられる帽子や遮熱アルミ素材を使った衣類など、太陽の下で活動する人に役立つ品々を開発している。

帝国データバンクの情報では、2021年12月期売上699百万円に対し、当期純利益は71百万円。従業員7名。1人当りの純利益は10百万円。超高収益企業である。

農家の作業着を重点に一点集中。顧客の声から新商品開発。小さくても高収益企業はできるという事例。



一口メモ
知識

仁とは 1

弟子の顔回(がんかい)が「仁とはどういうことですか」と訊いたので、「私利私欲に打ち勝って、公共の福祉に寄与することだ。やった一人の人間が一日でもそれを実践したなら、やがては世の中に仁が行き渡るようになるんだよ。つまり仁の広がりとは個々人のやる気に掛かっているのだから、他人事ではないのだ」と答えたんだ。

すると「実践の細目をご伝授ください」と言うから、

「公共の福祉に反するものは『見ない・聞かない・言わない・しない』の四点だ」と教えたんだ。

すると顔回は「分かりました。およばずながら、お言葉通り実行します」と返答したよ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

